

2010年度

科目名	コンピュータ心理学実験		
担当教員	井上 徹		
配当	人社3	コード	23780
開期	前期	講時	火曜日3限
		単位数	1
授業テーマ	「心」を科学的に捉える。		
目的と概要	コンピュータを用いた心理学実験を経験する。心理学実験の方法、実験の進め方、結果の処理及び結果の記述の仕方などを学習する。実験手続きを自らプログラミングするなかで、手順を追うことの大切さを学び取ることを目的とする。		
成績評価法	各課題について提出するレポート(80%) + 平常点(20%) 授業へ取り組む姿勢、理解への意欲度、仲間への貢献度も考慮します。		
テキスト	随時プリントを準備します。		
参考書	北村英哉・坂本正浩編 2004 『パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門』 ナカニシヤ出版		
履修に当たっての注意・助言	欠席するとやっていることが分からなくなります。欠席しないように。		
講義計画			
<p>1. 4ー5名をひとつの班とする。班として各実験課題に取り組み、レポートを作成し、結果を発表する。</p> <p>2. 1つの実験課題は、次のようなサイクルで行う。</p> <p>1週目 実験の概要と背景の説明、実験プログラムの説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など</p> <p>2週目 実験経過の報告、集計・分析方法の指導</p> <p>3週目 レポートへのまとめの指導</p> <p>4週目 実験結果の発表とレポート提出</p> <p>3. 受講の条件として、1回生配当の「統計学AおよびB」また「心理学研究法」を履修済みであること。もしくはこれらの科目を同時に受講していること。</p> <p>4. 各実験課題は、次の通りである。</p> <p>(1) Spellingの実験(感覚記憶)、 短時間に呈示された文字を再生させ、感覚記憶の容量を確認する。</p> <p>(2) メモリー・スパン実験 記憶材料を順に呈示し、短期記憶の容量が<math>7 \pm 2</math>チャンクであることを確認する。</p> <p>(3) 系列位置効果 自由再生法を用いて、系列位置効果を確認し、記憶の構造について考察する。</p> <p>(4) 情報の処理水準仮説  Craik &amp; Tulving に基づき、偶発学習によって異なる水準で処理された情報の再生率を比較する。</p> <p>(5) 概念の階層ネットワーク構造  刺激材料への反応時間を測定し、Collins &amp; Quillian の意味記憶の階層的ネットワーク構造を検証する。</p>			